

民主党では、離島の自立・振興策について、島の振興議員連盟（松原仁幹事長）や離島振興プロジェクトチーム（松原仁顧問）を設置し、東京では29名の議員で構成する都議会民主党離島振興等調査会と連携しながら、島の暮らしを守るための政策づくりに取り組んでいます。

島しょ地域での実績 ガソリンの流通コスト補助

島しょ地域においては、常に本土との経済的な格差を強いられており、特にガソリンや軽油・灯油といった燃油の価格格差が大きくなっています。また、基幹産業である漁業・農業用の燃油についても同様であり島しょの暮らしに大きな影響を与えています。

こうしたことから、民主党では、まず住民の暮らしに直結したガソリンの価格格差是正に取り組み、島しょ地区のガソリンの流通コスト補助を実施しました。

平成23年度より実施した「離島ガソリン流通コスト支援事業」は、本土と比べ割高な離島のガソリン価格の引き下げを図るため、値引きを行った販売店に対して、値引いた分、国から補助金を出るという仕組みです。ガソリンの輸送状況に応じて1リットル当たりの値段が7～15円程度引き下げられました。伊豆諸島は本土からの距離が遠いため、更に高額な支援が行われています。

平成23年度、24年度の事業費として、それぞれ31億円が執行され、伊豆諸島各島でも別表の通り値下げが行われました。



大島・八丈島	三宅島・神津島・新島 御蔵島・利島	青ヶ島	小笠原父島	小笠原母島
10円引き	35円引き	40円引き	55円引き	70円引き



◎高校生授業料免除

2010年度から実施されています。

離島に暮らす子どもたちの高校への進学は、島内に高校がない場合や本土に目指す学校がある場合など、保護者の負担は、大きなものとなっていました。授業料などへの支援策は島の子どもたちにとっては、また、全国的に見ても、制度が導入されたことにより、中途退学者が減少するなど、子どもたちの教育にとって大きな成果を上げています。

課題

◎貨物輸送に伴う冷蔵コンテナ導入

平成25年度には大島支庁管内町村の生鮮品の輸送に、国土交通省の「離島流通効率化事業」による冷蔵コンテナが導入されます。これにより、島の生鮮品の安全で、安定的な流通が確保されます。

◎島しょ医療の充実

医師や看護師などの確保や専門診療制度のための財源措置に取り組んでいかなければなりません。暮らしにとってへき地医療の充実に向けて、行財政的な支援を継続していかなければなりません。

◎小笠原の航空路の確保

島民の暮らしにとっては、航空路は、もはや必要不可欠なものとなっています。世界自然遺産への影響を配慮しながら、航空路の開設に取り組んでいかなければなりません。

◎子育て支援

様々な意見がありましたが、民主党の子育て支援策は島しょ地域では、大きな成果をあげています。

離島での子育ては、医療や教育面での負担も大きく、子育て支援は、島しょでの出生率にも影響を及ぼしていると言われてしています。

◎光ファイバー通信網の整備



利島、新島、式根島、神津島、御蔵島といった中小の離島では、ADSL回線による通信網環境が整備されていますが、近年の大容量のデータ通信には充分対応できない状況となっています。

中小離島の超高速光ファイバー通信サービスの実現に向けた取り組みを進めていくことが必要です。

◎三宅島の交通路の確保

三宅島の交通路については、空路・海路ともに大きな過渡期を迎えています。三宅島の復興のためには、必要不可欠な交通路の確保は緊急な課題として、早期の対応をしていかなければなりません。

島しょ地域での新たな試みへ取り組んでいます！！

平成24年8月24日（土）八丈島において「海洋エネルギーシンポジウム」が開催され、海洋エネルギーを活用した島の振興方策について有識者と意見交換し、八丈島振興につなげることを目的に開催されました。



シンポジウムの冒頭では、主催者側を代表して山縣宣彦国土交通省港湾局長が挨拶をした後、地元東京都第3区選出で元国土交通副大臣の松原仁衆議院議員が島の振興についての波力発電の重要性を訴えました。

また、山下奉也八丈町長が挨拶をしました。基調講演として木下健東京大学教授により『海洋再生エネルギー利用の世界と日本の現状』について、永田修一佐賀大学教授により『波力発電の動向』について、学術的な観点から講演がありました。

パネルディスカッションでは、八丈島における波力発電について活発な意見が出されました。

パネラーには基調講演をした木下教授、永田教授に加え、千葉大学特命教授の木場弘子氏、新エネルギー産業技術総合開発機構の伊藤正治氏、港湾空港技術研究所の高橋重雄理事長、国土交通省関東地方整備局の吉永清人 副局長が登場しました。

八丈島は、豊かな自然に囲まれ、地熱、風力などの自然エネルギーに恵まれた島であり、波エネルギーもその一つです。波のエネルギーについては、我が国でも数十年の歴史があり、クリーンエネルギーとして注目を集めています。

波力発電の導入は、全国の離島でのエネルギー確保方策の先駆的事例となるものであり、低潮線保全法により特定離島に位置づけられた沖の鳥島での電力確保方策にも利用が期待されています。

衆議院議員松原仁は島のために汗をかきます！



平成24年9月10日（月）、松原仁衆議院議員、川島理史町長、山縣宣彦港湾局長が、伊豆大島において取り組んでいる東京離島維持補修省力化実証実験の現場を視察しその後、大島町役場において意見交換会を行いました。

意見交換会には、松原仁衆議院議員、川島理史大島町長、中村佳一議長や漁業組合関係者が、また国土交通省からは山縣宣彦港湾局長、吉永清人関東地方整備局副局長など約30名の方々が参加しました。

《意見交換会での主な発言》

（松原大臣）

- ・我が国のEEZ面積は世界第6位を誇っており、国益の観点からも島嶼の発展は非常に重要である。
- ・島嶼における港湾は交通手段のみならず、観光や産業にとっても必要不可欠であり、実証実験が大島で行われることは非常に意義がある。
- ・島はEEZの拠点として重要で、島の振興には独自の方法が必要となる。ガソリンは内地より下げることを実施した。フランスでは島を丸ごと優遇している。
- ・島の開発については自然公園法がネックとなる場合もある。バランスが重要である。

その他の発言

- ・島嶼における港湾は生活、産業、防災や地域の賑わいの拠点であり、EEZや自然環境の保全、資源の活用にとって重要。離島振興法の延長を機に港湾のあり方や漁業、農業、住民等と協働して行きたい。
- ・大島で補修にかかる実証実験が行われることは意義深いものがある。今後も国の港湾行政に期待していきたい。
- ・港について、防波堤の整備をお願いする。ソフト面では船の料金が高いと感じている。

コンクリートも人も！

